

# 校長だより5号

発行月日:平成29年7月13日(木)  
うるま市立伊波小学校 石嶺 聡

## 教師の資質能力について考える

「教育は人なり」と言われる。学校教育でもその正否は、教師の資質能力に左右される。一般的に、教師の資質能力とは次の通り捉えることができる。

一つには、教職に対する強い情熱であり、仕事に対する使命感や誇り、子ども達に対する愛情や責任感であり、自身の向上心である。

二つには、教育の専門家としての力量である。教育のプロフェッショナルという見地からわかる授業を構築して「授業で勝負する」実践的指導力である。

三つには、総合的な人間力であり、教師自身が、豊かな人間性や社会性、教養を身に付けた上でのコミュニケーション能力である。

そして、これらは教師の命がけの「やさしさ」と「きびしさ」で子ども達に接することを求めることになる。

「凡事徹底」の元県教育長 仲村守和

## 授業におけるスイッチとは・・・

若い頃、「授業で子どもにスイッチを切られるような教師にはなるな」と先輩教師から言われたことがある。「教師は授業を進めるコントロールスイッチを自分が持っている」と勘違いしているが、実際には、子ども達の手にある。スイッチが切られると、教師がいかに大きな声を張り上げても、その思いを子どもに伝えることができない。本当に力量のある教師はそのスイッチを切られるどころか、スイッチを切っている子どものスイッチさえも入れさせることができるのだ」と聞かされた。

子どもにスイッチを切られる先生と子どもにスイッチを入れさせる先生の差は、上記の「教師の資質能力」を持っているかどうかだと考える。このことを子ども達は敏感に感じ取っているにちがいない。

